



# 荻川小だより

〒956-0011 新潟市秋葉区車場 922-1

電話：0250-25-2171 FAX：0250-25-2172

<http://www.ogikawa.city-niigata.ed.jp/>

令和6年10月10日発行 No.4



## 「しつれいします」

校長 平田 伸一

「校長先生、テレビに出たいです。申し込んでください」。昨年度の終わりころ、2年生（現3年生）数人が校長室のドアをノックして、「しつれいします」と入ってきました。校舎や敷地内でかくれんぼ遊びを楽しむ民放テレビ番組。ラグビー日本代表選手の母校であることは自慢の一つで、全国の人たちにも知ってほしいと。その願いをかなえるべく応募しました。

6月、修学旅行のお礼メッセージを届けるために来室した6年生。「しつれいします。二日間、みんなが無事に過ごせたのは先生方のおかげです。ありがとうございました」。学級ごとに束ねられているカード、一枚一枚を読みました。「『この旅行は、いろいろな人に助けられています』という到着式の言葉が心に残りました。」とKさんは記しています。

9月。「しつれいします」と訪ねてきたのは、ほほえみ学級Tさん。将棋を得意としている児童が、先生方と対局したいというのです。Tさんの準備がよくできていて感心しました。申込カードを用意してあり、私も記入しました。カードは自作の専用ボックスへ。トーナメント表も自作してあったこと、先生方がどれくらい将棋を指せるか（強いかわい）を考慮した組合せを想定していたこと。子どもたちの準備は万端でした。私の一局は終始Wさん優勢、50手ほど進んだところで私が投了。Wさんの圧勝でした。

荻川小学校の子どもたちは、学校を愛し、先輩を大切にして、感謝の心を持ち、自ら考えて行動することができます。

「しつれいします」の一言を発するには勇気も必要だったでしょう。この一言は小さな一歩といえます。でも、そのような小さな一歩が人生を変える、運命のとびらを開けるかもしれませんね。

## 前期の進捗状況について

教務主任 加藤 淳司

今年度、荻川小学校では、学校教育ビジョンの中に3つの柱を立て、努力事項を定めて教育活動に取り組んでいます。今回は、7月に行った児童アンケートと、保護者の皆さんにご協力いただいたアンケートを集約した結果をもとに、前期の教育活動の重点項目について取組の成果と課題、今後の改善点をお伝えします。また、自由記述欄には多くの感謝のお言葉をいただきありがとうございました。ご意見については今後の学校運営の参考とさせていただきます。

### 授業づくり部 「対話的な学びを通して、考えを深める子どもを育てる。」

	質問の内容	肯定的評価
児童	友達と話し合いながら、課題を解決することが好きである。	87.7%
児童	友達同士で話し合う活動によって、「なるほど」「分かった」「もっと考えたい」などと感じることがある。	91.3%
保護者	お子さんは、学校の勉強に意欲的に取り組んでいる。	86.2%

<後期に向けて>

対話的な学びを通してねらいに迫っていくための働き掛けを、日々の授業で行っている成果が児童の評価にも表れています。今後は、「つばさっ子ワード」や「学びのステップアップ」を基にして、全校共通で対話的な学びの授業を充実させていきたいと思えます。

### 生徒指導・教育相談部

#### 「かかわり合いを通して、なりたい自分に向かって行動しようとする子どもを育てる。」

	質問の内容	肯定的評価
児童	めあてを立てたり振り返りをしたりして、できるようになったことが自分で分かった。	86.5%
保護者	お子さんは、友達のよいところを見つけようとしている。	89.9%

<後期に向けて>

様々な活動や行事等で確実にめあてを立てたり振り返りをする時間を確保することはもちろん、学校生活全体を通して自分の成長を感じられるように、日々の授業等でも振り返りの場面で、できるようになったり成長したりしたことを教師が児童と一緒に振り返り、伝えることにより実感させていきたいと考えています。

### 特別支援教育部 「だれもが、安心して過ごせる環境をつくる」

	質問の内容	肯定的評価
保護者	担任や教職員との面談が、家庭と学校が連携していく意識につながっている。	95.2%

<後期に向けて>

担任や教職員との面談等を通して、保護者と連携して一緒に児童について考えていく大切さを感じています。今後も学級担任、特別支援学級担任、特別支援教育コーディネーターと連携し「理解教育」を進めていき、だれもが安心して過ごせる環境づくりをさらに進めていきたいと思えます。